都立学校
読書活動実践事例

「第二次東京都子供読書活動推進計画」(平成２１年３月策定)では、未読者率の半減を目標として掲げるとともに、都立学校各校において計画的に読書活動に関する取組を推進するとしています。
そこで、各校での一層の読書活動推進のために、特色ある読書活動や学校図書館を活用した授業実践などの事例を集め、その一部をパンフレットに掲載して紹介することといたしました。今後の読書活動に御活用ください。

目 次

【高等学校の実践事例】
●特色ある読書活動……１・２
●授業実践……３・４
●進路指導に伴う学校図書館の活用……４・５
●学校図書館における工夫……６・７
【特別支援学校の実践事例】……８

高等学校の実践事例

【特色ある読書活動】

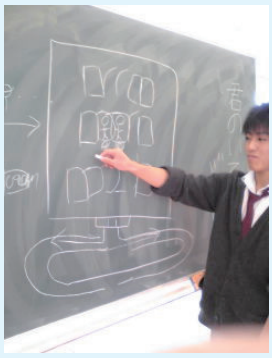
農産高等学校　《授業時間を活用した「読書紹介」》

■ ねらい

「読書紹介」の取組を通じて、日常的に本を読む習慣を身に付けさせるとともに、新しい本への興味をもたせ、読書の幅を広げる。

■ 概　要

本校では、２学年に一年間を通じて「常に読んでいる本を持つこと」を課題としており、その発表の場として国語総合の授業の中で「読書紹介」を行っている。「読書紹介」では、生徒が交代でその本を選んだきっかけ、あらすじ(登場人物や場所、時代、主人公がしたことなど)、印象に残った場面や言葉を紹介し、感想や意見などを発表する。発表者以外の生徒は「読書紹介メモ」に感想や意見を記入する。科学読本や人物伝、趣味の本など、その時に自分が興味関心のある本を紹介する生徒もいるが、基本的には小説を読み、紹介することにしている。一人がシリーズで紹介したり、続編を別の生徒が紹介したりする場合もある。本が重複することもあるが、その場合には前の感想と異なる感想を聞くことができる。「読書紹介」で取り上げた本の概要や他の生徒の感想は、各学期の最後にまとめてプリントにして配布している(学期毎に１００冊程度の本について紹介している)。同学年生徒の読書紹介をお互いに読み合うことで、各自の読書体験を全体で共有し、読書活動を広げていくことにつながっている。



また、1学年では、「本を読んでみんなに紹介する」という授業を行っている。「読書の秋」に、３時間(１週間)程度で、全員が発表するという取組である。さらに、全学年の生徒を対象に、夏季休業期間中にも「私の夏の１冊」を課題として出し、全員が必ず１冊以上の本を読み、紹介または推薦する文章を書く取組を行った。

読んだ本を他者に紹介することによって、本の内容を読み取り（読解力）、その内容を要約する力、及び複数の生徒に自分の考えを伝える力（表現力、コミュニケーション能力）を育成していきたいと考えている。

■ 成　果

２学年の実践「読書紹介」の後には、「ドラマで観たことがあったけど、原作を読んでみたくなった。」「結果がどうなったのか気になった。」など、新しい本への興味につながっているコメントが見られた。また、他の生徒の読書紹介を聞いたことがきっかけとなり、実際に紹介された本を読んだ生徒もいた。

生徒たちの日常的な会話の中にも、おもしろかった本や好きな登場人物の話など、本の話題が出るようになっている。読書に関連する様々な取組により、本を読むことに対する抵抗感や苦手意識はなくなり、生徒たちにとって読書が身近なものになっている。学校図書館でのリクエスト(購入希望図書や予約本)も増加し、貸出冊数も大幅に増加した。

東京都教育委員会

武蔵村山高等学校　《読書の定着化につながった「昼読書」》

■ ねらい

毎日の「昼読書」を通じて、生徒に読書習慣を身に付けさせるとともに、「語彙力」「本の内容を理解する力」「登場人物の心情を読み取る力」などを育成し、学力の向上を図る。

■ 概　要

本校では、平成２３年４月から昼休みの後の１０分間を「昼読書」の時間として設定し、全校挙げての読書活動を実施している。これは、平成２２年度に希望者を対象とした朝読書を行ったが、十分な成果を上げられなかったという反省に基づき、計画・実施したものである。

対象を全校生徒に広げての実施に際し、平成２２年度の予算で本棚を２０架購入して各クラスに設置し、教員・保護者に呼びかけて、本の寄付を募った。各クラスに本を置くことにより、本をすぐ手に取れる環境ができている。５時間目の授業担当者は、遅刻や欠席の確認も含め「昼読書」の時間の指導・監督を行うとともに、時間内は生徒と一緒に本を読んでいる。また、平成２４年度から「読書カード」を生徒手帳の中に追加し、読書後すぐに記録を残せるようにした。

当初は不安もあったが、始めてみるとほぼ全員が驚くほど真剣に読書に取り組んでいる。

■ 成　果

生徒からは、「今までは時間がなくて本を読まなかったけれど、読んでみたらとてもおもしろかった。」という声があった。学校生活の中に読書をする機会を設定すれば、生徒は積極的に本を読むようになるということを実感することができた。また、読書の時間があることで授業前の雰囲気も落ち着き、「５時間目の授業に対しての集中力が増した。」という教員の声が聞かれるようになった。「読書の時間」だけでなく、休み時間や課題を終えた後の自習時にも本を読む生徒が増え、大きな成果があったと考えている。

日比谷高等学校　《３校合同による「読書会」の実施》

■ ねらい

他校の生徒を交えた読書会を通じて、コミュニケーション能力の向上を図るとともに、様々な視点や価値観に触れることにより、自らの視野を広げる。

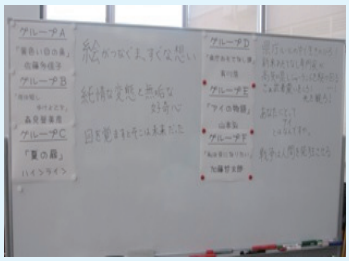
■ 概　要

本校では、数年前から他校の図書委員会との交流活動として、「図書委員会交流会」を実施している。内容は、図書委員会の活動紹介や「電子書籍」「古典文学と現代文学」についてのテーマディスカッションなどである。

平成２４年度は、３校合同（私立女子高、私立中高一貫校を含む。）の「読書会」を行った。各校の生徒が希望する本を課題図書に選定し、３校の生徒が必ず各グループに入るよう４人１組の班分けを行った。

当日は、各自が別々の役割を担い、２５分ごとに役割を変更し発表を行った。この「読書会」は、ディスカッショングループを用いた読書指導「リテラチャーサークル」方式※を採用し、全員に必ず役割を与えることにより、それぞれの立場で活発に議論が行われるよう工夫をした。議論後は、グループとしてのキャッチコピーの決定と発表、ＰＯＰ作りなどを行った。

※アメリカの読書教育研究家ダニエルズらが開発した読書指導の方法。同じ本を選んだ子供同士がグループを組み、あらかじめ決めてある役割（印象に残ったところにスポットを当てる「照明係」、本からイメージして絵を描く「イラスト係」など）に応じた感想を発表し合う。



■ 成　果

生徒たちは、女子高と共学、中学生と高校生など環境、年代の違いを生かして、多くの目線から共通の本について意見を交流することができた。また、他校の生徒と活発に意見を交わす中で、多様な視点や価値観に触れ、自らの視野を広げる良い機会にもなった。課題図書だけでなく、読書会で話題になった本に興味をもった生徒もおり、新しい読書の楽しみ方を発見することにもつなぐことができた取組であった。

小石川中等教育学校　《学校図書館を活用した課題研究「小石川フィロソフィー」》

■ ねらい

「小石川フィロソフィー」の学習の中で学校図書館を活用し、自己学習力、科学的思考力、コミュニケーション力を高める。

■ 概　要

本校では、４年生１６０人が約１０講座に分かれ、自らテーマの設定、調査・研究を行い、その成果を発表する課題研究「小石川フィロソフィー」を設定している。過去の文献や研究成果について調査活動をしながら自らの仮説を立て、次に自ら立てた仮説について科学的な裏付けとなる資料検索、調査、研究を行い、結果をまとめている。そして、研究の成果をまとめた論文を作成し、研究発表を行っている。

「小石川フィロソフィー」では、各講座の調査研究活動の支援を積極的に学校図書館が行い、資料相談に応じている。また、学校図書館では、前年度の研究論文を講座ごとにまとめて配架したり、各講座の推薦図書及び論文作成や資料調査関係の本を集めた専用コーナーを設置したりするなど、生徒が調査・研究活動しやすい環境を整えている。

図書館を活発に利用した講座例としては、『満州と文学』『日本人と自然』『文化の多様性とその背景』『役立つ数学～統計解析入門～』『ハワイ研究入門』『美術作品を読む』などがある。

■ 成　果

本取組を通して、生徒たちは蔵書検索をした後に本の番号から書棚を探し、必要な情報を入手する方法を身に付けるとともに、一般的な図書だけでなく、新書・雑誌・新聞・事典・ネットなど様々な情報の形態があることを学ぶことができた。また、自然科学分野に関連した本を多数読み、研究報告にまとめることで科学的思考力を伸ばしたり、調査研究活動の中や発表会における研究交流の中でコミュニケーション力を高めたりすることもできた。調査に際して、新書や専門書をはじめとする学術教養書を手に取って読む機会が増えたことも、大きな成果である。学校図書館だけではなく、地域の図書館や大型書店などを利用することにもつながっており、生徒の読書活動に広がりができた。

千早高等学校　《小論文指導につなげる「新書読み」》

■ ねらい

「新書読み」の取組を通じて、大学進学後に専門書を読んだり、論文を書いたりするための基礎能力を獲得させるとともに、目的をもって学ぶための読書方法を身に付けさせる。

■ 概　要

本校では、２学年の選択科目国語演習Ａで「新書読み」を行っている。これは、本校が重点を置いている英語教育やビジネス教育に関連する新書、または自分の興味のある分野の新書を読み、レポートにまとめる授業である。新書は、アカデミックな最新の情報を一般人にも分かりやすく説明している。また、見出しや小見出しが細かく付いており、興味のある部分から読み始めることができるものも多いため、授業の材料として取り入れている。

教員は、新書がどのような形態、構成になっているのかを説明し、その後、一人一人の興味のある分野やレベルに合わせて、図書館で実際に本を手に取りながら生徒と一緒に本を選んでいる。司書も、図書選定の際に英語教育とビジネス教育に関連する新書を集中的に選び、新書の数や種類を充実させ、図書館の入り口付近に陳列するなど、生徒が新書に親しみやすいよう工夫をしている。

■ 成　果

英語教育やビジネス教育に関連する新書を読むことで、生徒は授業で学んだことを再確認したり深化させたりすることができるようになった。また、３学年になって実際に小論文を書く際に、２学年で「新書読み」を経験した生徒は、論説文などの構成や書き方を理解しているので、戸惑うことなく始めることができている。新書に親しんだことで、娯楽としての読書だけでなく学びのための読書へ、と生徒の読書に広がりができた。

第一商業高等学校　《学校図書館を活用した自発的な調査・研究》

■ ねらい

自ら興味関心のあるテーマを設定し、商業に関する基礎的・基本的な学習の上に学校図書館の文献資料を活用して調査や研究を進めることを通じて、問題解決の能力や自発的、創造的な学習態度の育成を図る。

■ 概　要

本校では、3学年の商業専門科目として「課題研究」を設定している。「課題研究」の授業では、文献を丁寧に読み込んで情報収集させることを大きなポイントとして指導している。このポイントを実現するため、授業の目的や大まかな流れ、生徒たちが設定したテーマなどについて、講座担当の教員と司書が情報を共有化し、生徒に適切なアドバイスをするようにしている。生徒たちは、関連する本を何冊も読み、大切なところはノートに抜書きをしながら研究を深めていく。

例えば、「経営調査研究」というテーマを選択した１０名の生徒は、修学旅行で行った夕張市の財政活性化のためにどのような方策が必要なのか、高校生の経験からどのようなアイディアを引き出せるかについて研究した。図書館の様々な本を読み、皆で検討し、意見を出し合って問題点を探りながら「夕張キャンプ」研究発表大会の最終提案につなげた。

■ 成　果

学校図書館で文献を読み進めていくうちに、次第に自分の研究テーマに対する問題意識が高まり、「もっとこうした資料が欲しい。」と情報を欲してくるようになってきた。そして、学校図書館や地域の図書館、インターネットなどによる様々な情報を組み合わせながら研究を深めることができるようになった。この授業を通じて、本への親しみを覚え、下校途中にも書店や図書館に足を運ぶ生徒が増えるなど、主体的に学ぶ姿勢が身に付いた。

【進路指導に伴う学校図書館の活用】

国分寺高等学校　《「大学をめざす君のための図書館利用講座」》

■ ねらい

進路指導の一環として、生徒の進路に関する本を探させたり、専門書に触れさせたりすることを通じて、自分の進みたい専門分野への関心を喚起させるとともに、進学後に活用できるよう図書館の利用方法を学ばせる。

■ 概　要

本校では、１学年の２学期に進路希望別の大学訪問を実施している。大学訪問後、各クラスで、「総合的な学習の時間」における進路研究（キャリアガイダンス）の一環として「大学をめざす君のための図書館利用講座」を実施している。これは、大学進学後にレポートを書く場面を想定し、図書資料の活用の仕方を学ぶという取組である。

学校図書館内で、自分が進みたい学科や学問に関連する資料を１冊探し、その資料を教材に「図書館分類」「図書館における書籍の検索方法」「レポート作成の手順」「参考文献リストの作成法」などについて、学校が独自に作成したワークシートを活用して学んでいる。

１学年でガイダンスを受けた生徒たちは、２、３年生になっても日常的に職業調べや大学調べ、受験校の選定などのために図書館の資料を活用している。

■ 成　果

生徒たちは、進路を考えるに当たって普段は手に取らないような本を興味深そうに眺め、真剣に取り組んでいる。「大学でのレポート作成のためには、図書館の活用方法を知る必要がある。」という意識を明確にもつことができた。また、図書の請求番号の仕組みや図書館での検索方法、レポートの引用文献や参考文献の扱い方などについても、詳しく学ぶことができた。図書館の利用法を学んだことにより、各教科の授業でレポートを作成する際にも、「調べることがある時には図書館に行こう。」という意識を生徒がもつようになり、学校図書館の有効活用につながっている。

竹台高等学校　《新聞を活用した学習会》

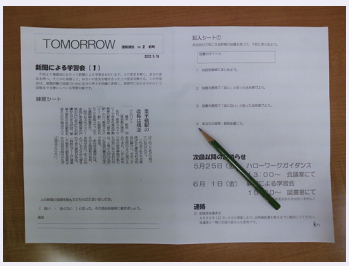
■ ねらい

新聞の投書欄を題材にした学習会を通じて、新聞を読み取る力を身に付けさせるとともに、他人の意見を聴きながら自分の考えと比較してまとめていく力を付けさせる。

■ 概　要

本校では、進路指導部が放課後に行っている進路学習会の一環として、就職希望の３学年の生徒を対象に、図書館の新聞を利用した学習会を行っている。学習会の内容としては、①新聞の特徴や紙面構成について理解する、②教員が用意した一つの投書について生徒一人一人が「賛成」又は「反対」の立場に立ち、その理由を発表する、③新聞の中から自分が気になる投書を見付け、ワークシートを作成した後に発表する、という流れである。進路指導部の教員が学習会を計画・実施し、司書は新聞の準備、資料案内などを行っている。

学習会終了後も継続して自主的に新聞記事に目を通すことを指導し、新聞を読み取る力、自分の意見を発表する力を更に伸ばし、就職試験の面接で自分の考えを的確に表現し、面接官に伝える段階にまでつなげている。



■ 成　果

この学習会を経験した卒業生は、「新聞を読む習慣がなかったが、学習会をきっかけに、投書欄では人々がどのような気持ちで過ごしているのか、社会面では今私たちに何が起こっているのか関心をもつようになった。自分の考えをまとめる練習をしたことで、落ち着いて面接を行うことができただけでなく、社会人になる心構えをもてるようになった。」と話している。新聞の紙面構成や読み方が分からない状況だった生徒たちも、この学習会で繰り返し意見交換を行い、その後も自主的に継続して取り組むことを通して、新聞を読み取る力、自分の意見をまとめる力を身に付けることができた。

片倉高等学校　《進路部と学校図書館の連携》

■ ねらい

進路部が学校図書館と連携して進路指導を行うことを通じて、生徒の進路相談に迅速に対応するとともに、多くの情報の中から自分の進路に必要な情報をじっくり吟味できる力を生徒に身に付けさせる。

■ 概　要

本校では、多様化する入試方法など将来に向けた情報を生徒に提供するため、進路指導室だけでなく学校図書館も活用して進路指導を行っている。その際、進路部の教員が図書館に常駐することによって、図書館内で自習する生徒たちの進路に関する相談に即座に対応している。一日に 10 人～ 20 人程度の生徒が進路相談に訪れている。

また、進路指導ガイダンスの際に、一人１冊「進路指導ノート」を作成するよう指導している。そのノートを見ると、生徒がどんな本を読んだか、どんな指導を受けているかが分かるので、系統的な指導が可能となっている。学校図書館での指導のため、生徒の希望する分野の本についてもすぐにアドバイスすることができ、本に手を伸ばす生徒が増えてきている。

■ 成　果

生徒たちは、「どのように本を探せばいいのか分からない。」といった基本的なことから気兼ねなく教員に聞けるようになった。また、自分のなりたい職業について、楽しそうだからとか好きだからというだけでなく、仕事での苦労を理解したり、専門性を高めたりすることが必要だということが分かるようになってきた。様々な視点から調べる力が付き、将来の夢が明確な目標となった生徒も多く見受けられた。この取組により図書館の利用頻度が増え、生徒の読書活動にも広がりが出てきた。

大島海洋国際高等学校　《「ゴハンを食べるように本を読む」》

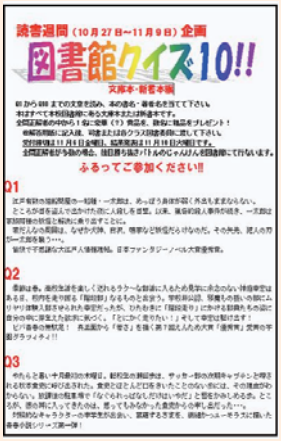
■ ねらい

生徒が参加しやすいイベントを開催し、積極的に学校図書館と関わらせることで、基本的な学校図書館の使い方を身に付けさせるとともに、日常的な読書の定着を図る。

■ 概　要

本校では、「ゴハンを食べるように本を読む」というキャッチフレーズを掲げ、生徒の生活や地域の人々の生活に密着した読書環境作りに取り組んでいる。

地域の方から本を集めて文化祭で古本市を開催したり、毎週土曜日に図書館を一般開放したりしている。また、読書週間に、全校生徒を対象として「図書館クイズ」を実施し、優秀者に雑誌の付録などの賞品を授与している。図書館の情報検索方法や利用マナーに関わるクイズ、小説の内容に関わるクイズの２種類を図書委員が作成し、各クラスで実施している。期間中はポスターを掲示するなどの広報活動も同時に行い、読書推進・図書館利用促進をアピールしている。年度末に多読者表彰も行い、生徒の読書習慣の確立を目指している。



■ 成　果

今まで読書経験の少なかった生徒が、昼休みを中心に図書館で雑誌や図書を手に時間を過ごすようになってきた。また、その生徒たちが呼び水となって、更に他の生徒たちも図書館を利用するといった傾向が見られる。日常的に時間があれば図書館へ行くようになり、本を読むことが生活の一部となっている。読書に関する様々な取組により、読書の習慣化が効果的に行われている。

足立東高等学校　《生徒の手による学校図書館作り》

■ ねらい

「図書館作り体験」の活動を通じて、学校図書館を身近な存在として捉えさせるとともに、基本的な学校図書館の利用方法を体験的に理解させる。

■ 概　要

本校はエンカレッジスクールであり、その特色の一つとして１学年及び２学年で「体験学習」という授業を設定している。その「体験学習」をヒントに、３年前から図書委員会生徒を中心に他の生徒も交え、図書館作りという体験活動を行っている。

生徒たちは、週に１回、朝、昼休み、放課後のいずれかに図書館に来て活動している。活動内容は、入口の看板設置、館内外の装飾、書架の案内表示の作成、コンピュータ化、ブックカバー作成、館内展示、手書きＰＯＰ作り、図書館だよりの発行、ポスター作成など、図書館の環境整備に関連して、それぞれの生徒自身が得意なものとしている。個々の能力や興味関心で活動が選択できるため、図書委員を含め、全校の２割の生徒が積極的に参加している。また、「ブックリボン」や「読書月間」(ポスターの掲示、選書)などのイベントにも意欲的に参加している。

■ 成　果

図書館作りに参加している生徒たちは、「自分たちが作っている図書館」に魅力を感じ、より身近な存在にすることができている。活動の様子を見ている周りの生徒たちも、次第に図書館作りに参加するようになってきた。また、「図書館だより」「おすすめの１００冊」「図書館の利用促進のポスター」「読書活動推進のポスター」などを作る活動を通して、他の生徒の読書意欲の喚起にも貢献している。

府中高等学校　《若手教員向け校内研修の実施》

■ ねらい

若手教員を対象とした校内研修を通じて、学校図書館についての理解を深めるとともに、授業やホームルームなどでの学校図書館の活用を推進し、生徒の読書活動の充実を図る。

■ 概　要

本校では、生徒及び教員向けに、図書館での調べ学習の手引き「調べ学習　きほんのき」を作成している。手引きは、主な内容として「日本十進分類法」や「文献の検索方法」、「参考文献の書き方」などを掲載している。この手引きを活用し、司書を講師として新採４年目までの若手教員を対象とした校内研修を実施した。学校図書館は、生徒や教員の「自発的な読書」に対応するばかりでなく、新しい高等学校学習指導要領に示されている「課題解決的な学習や探求的な活動を支援する」役割もある。図書館を使っての授業を実施するきっかけとなり、学校図書館の有効活用について理解を深めてもらうために本研修を実施した。

内容は、①「学校図書館の役割」、②「授業等における学校図書館の活用方法」、③「図書館内の見学」、などである。特に授業やホームルーム、行事などでの学校図書館の活用については、実践事例を交えて理解を深めるとともに、活発な意見交換をすることができた。

■ 成　果

校内研修で学んだことを生かし、国語科の新採教員は、「現代文」の授業で「図書館の本を読み、紹介するＰＯＰを作る」という６時間の単元を設定し、３クラスで実施した。できあがったＰＯＰは図書館で利用したり、読書週間中に渡り廊下に貼り出したりして、生徒の読書活動の推進、未読率の減少の一役を担った。本研修の実施により、授業で図書館を利用する教員も増え、調べ学習や、プレゼンテーションの準備など、幅広く図書館が活用されるきっかけとなった。

♪東京・高校　学校図書館スタンプラリー

都立高校 10 校、私立高校 3 校で、学校図書館の PR を目的に、夏季休業期間中に「東京・高校　学校図書館スタンプラリー」を実施した。参加者は中学生及びその保護者、中学校の教員などであった。

しおりやＰＯＰの制作体験、作家のトークショー、司書教諭による図書館活用法など、学校ごとに工夫を凝らしたイベントを用意した。参加者には、各校の図書館を回りスタンプを２個集めると、特製しおりと「高校司書が選んだ中学生におすすめの本４８冊」の冊子が配られた。「読みたい本がいっぱいある。」と中学生からは大変好評であった。保護者からも、「高校の図書館を見ることができて、高校受験の参考になった。」という声も出ていた。また、マスコミなどの取材もあり、学校外への情報発信など、積極的なＰＲをすることができた。

【参加校】　広尾・板橋・竹早・練馬・足立東・忍岡・石神井・稔ヶ丘・杉並工業・農芸
私立玉川聖学院中高・私立工学院大学附属工学院中高・私立八王子学園八王子中高

♪６校ネットワークの活用

平成２３年５月に、近隣の都立高校と共同して、図書の相互貸借を目的とする「ＮＮＳ(中野、練馬、杉並の略称) 都立高校図書館ネットワーク」を立ち上げた。

通常、それぞれの学校図書館が生徒や教員から購入希望を受けると、直近の選定手続きを経てからの提供ということになる。しかし、レポート学習や授業支援においては、時間的に余裕があることはまれである。また、調べ学習や学年の要望で、一度に同じジャンルでたくさんの本を準備しなければならないというケースもある。このネットワークを構築したことにより、自校にない図書の提供や自校だけでは数量が足りない場合に他校から借り受け、生徒や教職員の要望に対応することができるようになった。

学校間の借受は、司書が自転車で運搬している。さらに６校間での資料提供の依頼は、TAIMS を活用している。

このようなネットワークを活用した他校との協力関係は、生徒や教員の資料要求への迅速な対応に力を発揮し、それが図書館への信頼を育み、図書館利用の活発化の要因となっている。

〔井草・鷺宮・杉並工業・農芸・稔ヶ丘・武蔵丘〕

特別支援学校の実践事例

港特別支援学校　《地域の公立図書館との連携》【特色ある読書活動】

■ ねらい

児童・生徒の障害の程度に応じた公立図書館との連携事業を実施することを通じて、児童・生徒が図書館への興味・関心を深め、余暇活動の広がりにつなげていけるようにする。

■ 概　要

本校では、各学部がそれぞれの特性に合わせた近隣公立図書館との連携を行っている。小学部では、学級ごとに公立図書館に本を読みに出かける他、高学年児童対象に年間２回程度「お話会」を実施してもらっている。中学部では、調べ学習の際に公立図書館を活用している。学校から事前に調べたいテーマを伝えておくことにより、レファレンスがスムーズに受けられるよう工夫している。高等部では、公立図書館で本を読んだり、修学旅行の事前学習として関連資料を借りたりしている。また、作業学習で園芸班が花の寄せ植えを届けたり、そのメンテナンスを行ったりもしている。

学校としても、公立図書館のリサイクル図書の中から、本校で活用できそうな物を譲り受けたり、学校用貸し出しカードを利用して個人や団体で貸出を受けたりしている。

本校の学校運営連絡協議委員である図書館長をはじめ、職員の方はとても協力的である。

■ 成　果

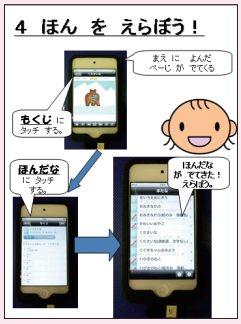
生徒から、「今度はいつ図書館に行けるのか。」「このような本を借りたいがどうしたら良いのか。」といった相談を受けるようになった。公立図書館での活動を期待し、楽しみにしている様子がうかがえる。また、図書館側も、レファレンス担当の職員が文化祭に訪れてくれるなど、結び付きが深まったことを実感することができている。中学部生徒の中には、カードを利用したいという生徒も出てきていて、読書活動に広がりが見られている。公立図書館との連携を通じて、児童・生徒が「読書」に親しみを感じている。

八王子東特別支援学校　《「バスの中だって読書したい！」に応えて》【特色ある読書活動】

■ ねらい

スクールバスの中での時間を有効活用した読書活動を推進することを通じて、児童・生徒の「感じる･読み取る力」､「受け止める･考える力」､「伝える･書く･話す力」などを高める。

■ 概　要



本校は、肢体不自由のある児童･生徒が通学するために、通学区域内に１０台のスクールバスを運行させている。スクールバスを利用し、登下校に片道６０分以上かけている児童・生徒もいる。この時間を有効活用した読書活動を推進できないか模索していたところ、民間教育財団の協力を得て、携帯用音楽プレイヤー１０台、タブレット型パソコン１台の貸与を受けることができた。

児童･生徒を対象とした説明会を開催した後､実際にスクールバスの中で活用し始めた。上腕、手指、眼球運動などの障害により車内での読書が難しい児童・生徒であっても､ＤＡＩＳＹ図書※の読み上げ機能を用いて「聞く読書」をすることが可能になった。初期画面で「感想を録音してね。」と呼びかけていることもあり、ほとんどの児童・生徒が、読後に感想をボイスメモに録音している。

※普通の印刷物を読むことが困難な人々のために開発された、デイジー規格によるデジタル録音図書

■ 成　果

導入前は、ぼんやり外を見ている、寝ているなど、バスの中での時間を持て余していた児童・生徒が、「聞く読書」のシステムが導入されると、スクールバスの中で過ごす時間をとても楽しみにするようになった。この取組をきっかけに、休み時間の図書館利用、家庭生活における読書など、児童・生徒の読書活動の広がりにも成果が出ている。学校図書館「八東ライブラリー」の整備とも合わせ、校内の読書環境が大きく改善されたことにより、児童・生徒が読書に寄せる関心は高まっている。

都立学校　読書活動実践事例　　平成２５年３月発行
編集発行：東京都教育庁地域教育支援部管理課　〒163-8001　東京都新宿区西新宿二丁目８番１号
電話　03-5320-6858　ファクシミリ　03-5388-1734
印刷物登録番号：24 年度　第２４４号　　印刷：正和商事株式会社

R100 古紙配合率100%再生紙を使用しています